

報道関係者各位

2015年4月9日

フォートラベル株式会社

カレンダー通り5連休が最多、国内旅行は早期予約化が進む。一方で仕事派も増加

2015年 ゴールデンウィークの過ごし方アンケート結果

— 旅行のクチコミと比較サイト フォートラベル —

フォートラベル株式会社（本社：東京都渋谷区 代表取締役社長 安永 成志、以下、フォートラベル）は、運営する「旅行のクチコミサイト フォートラベル(<http://4travel.jp/>)」の会員を対象に、「2015年 ゴールデンウィーク(GW)の過ごし方」に関するアンケート調査を実施いたしました。調査結果を、以下の通りご報告いたします。

【TOPIC1】 GWの連続休暇日数の平均は5.7日と対昨年で0.3日UP

【TOPIC2】 GWの過ごし方は、「海外旅行」21.6%、「国内旅行」20.3%

【TOPIC3】 国内旅行の期間は平均3.7日、人気の旅行先は「沖縄県」「長野県」「北海道」

【TOPIC4】 海外旅行の期間は平均7.5日、人気のエリアは「アジア」、出発日のピークは「5月2日(土)」

【TOPIC5】 海外旅行予定者の85.9%、国内旅行予定者の62.2%が旅行手配に着手

【調査結果解説】 執筆：旅行ジャーナリスト 村田和子

- 1.「国内旅行予約の早期化」、「GWも仕事派の増加」理由とは
- 2.海外旅行の手配や旅先は様子見の傾向も。治安面が影響か
- 3.北陸新幹線、「興味はあるが混雑は避けてゆっくり」、「影響」「利用意向」は地域差が顕著

【TOPIC1】GWの連続休暇日数の平均は5.7日。

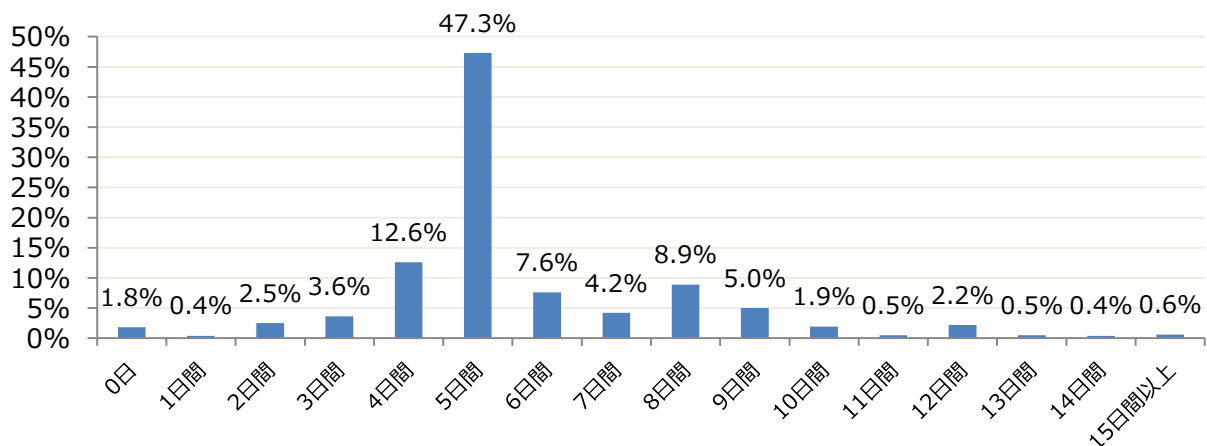
GWの連続休暇日数の平均は5.7日。回答数の多い順から「5日間」(47.3%)、「4日間」(12.6%)、「8日間」(8.9%)となった。連続休暇の開始日は「5月2日(土)」が最多で、「4月29日(祝)」「5月3日(祝)」と続く。

GWの連続休暇日数の平均は5.7日と対昨年で0.3日UP。回答数の多い順から「5日間」(47.3%)、「4日間」(12.6%)、「8日間」(8.9%)となった。連続休暇の開始日は「5月2日(土)」が最多で、「4月29日(祝)」「5月3日(祝)」と続く。

休暇のパターンとしては、カレンダー通り5月2日(土)からの5連休が圧倒的に多い。初日が土曜日の為に出勤となり、5月3日(祝)から休暇というケースも目立つ。また大手自動車会社等、メーカーの生産ラインでは4月29日(祝)からの8連休と定めている企業が多い。昨年は10連休というメーカーが多かったことから、休暇の長期化は昨年よりもやや抑え気味となっている。

後半は大型連休となるが、前半は水曜日に祝日が1日あるのみで、有給を利用した休暇・旅行計画はしにくく、旅行計画も特定日に集中する傾向が強い。

GW連続休暇日数（予定）

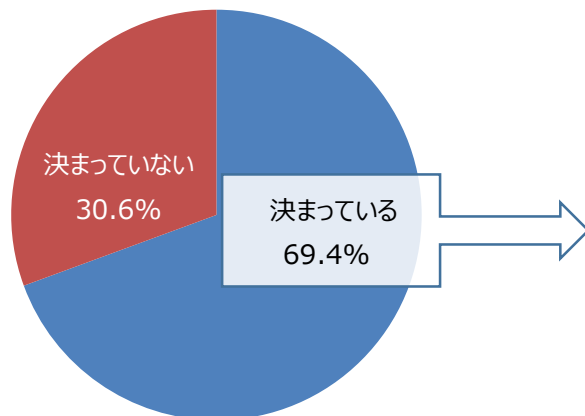


【TOPIC2】GWの過ごし方は、「海外旅行」21.6%、「国内旅行」20.3%。

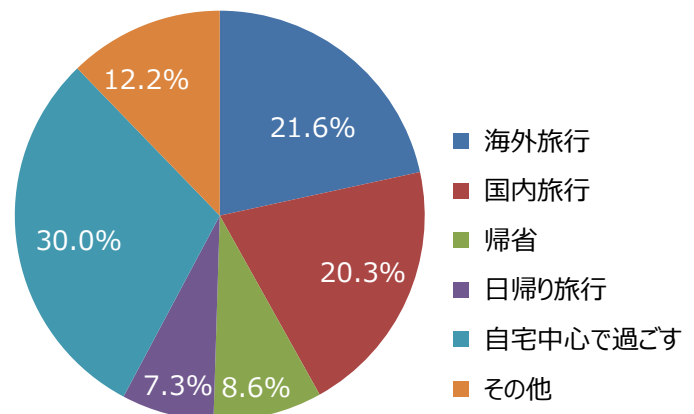
GWの予定が「決まっている人」は69.4%。そのうちもっとも多い過ごし方は「自宅中心で過ごす」(30.0%)。続いて「海外旅行」(21.6%)、「国内旅行」(20.3%)。「仕事」という回答も増加。

GWの予定が「決まっている人」は69.4%で、対昨年で3.1ポイント減。予定が決まっている人の中で、最も多い過ごし方は「自宅中心で過ごす」の30.0%。続いて「海外旅行」(21.6%)、「国内旅行」(20.3%)となった。軒並み対昨年でダウンする中、唯一「その他」(12.2%)は、対昨年で5.1ポイント増加。具体的な過ごし方を聞いたところ「その他」と回答した235名のうち102名が「仕事」と回答。「サービス業でGWに休みがない」、「休みだけれど、仕事を入れる予定」、「(連休だが)飛び飛びで仕事が入り休めない」という会社員を中心に、「仕事が入れば優先する」「休暇がとれるかどうかは仕事次第」という自営業やフリーランス、パート・アルバイトの人も多い結果となった。

2015GWの過ごし方は決まっていますか？



2015GWの過ごし方



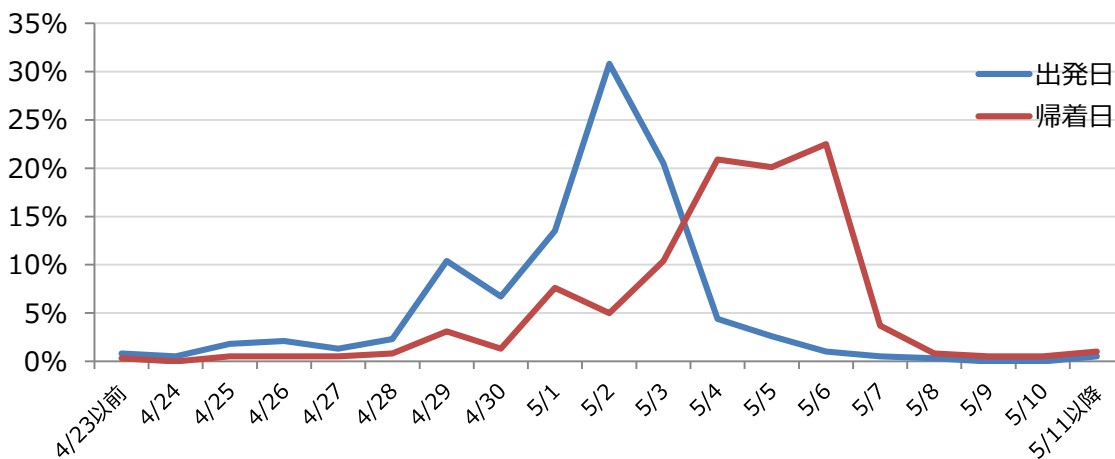
2015年GWの過ごし方(対昨年)		
全体	2015年	2014年
海外旅行	21.6%(▲0.3)	21.9%
国内旅行	20.3%(▲2.9)	23.2%
帰省	8.6%(▲0.1)	8.7%
日帰り旅行	7.3%(▲0.6)	7.9%
自宅中心で過ごす	30.0%(▲1.2)	31.2%
その他	12.2% (+5.1)	7.1%

【TOPIC3】国内旅行の期間は平均 3.7 日。人気の旅行先は「沖縄県」「長野県」「北海道」。

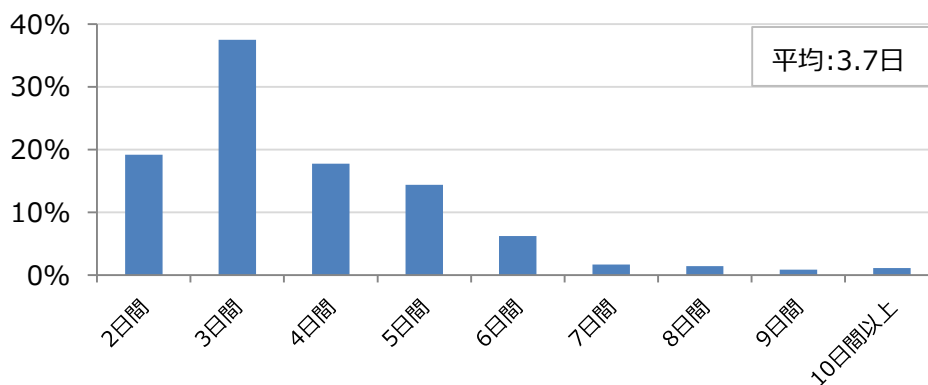
国内旅行の期間は平均 3.7 日。人気の旅行先は「沖縄県」「長野県」「北海道」。北陸新幹線開通による影響はみられず。出発日のピークは「5月2日(土)」、帰着日のピークは「5月6日(振休)」。

国内旅行の期間は平均3.7日。「3日間」が最も多く37.5%、「2日間」(19.2%)、「4日間」(17.7%)と続く。旅行先は「沖縄県」「長野県」「北海道」「東京都」「静岡県」の順となっており、昨年と比較して顔ぶれは5位が神奈川県から静岡県になった以外は、変わらなかった。北陸新幹線開通により北陸方面の旅行が伸びるかと思われたが、本調査では特に影響は見られない。出発日は「5月2日(土)」(30.8%)がピークで、「5月3日(祝)」(20.5%)、「5月1日(金)」(13.5%)と続く。帰着日は「5月6日(振休)」が22.5%でトップ。「5月4日(祝)」(20.9%)、「5月5日(祝)」(20.1%)も僅差で続き、帰着日は分散傾向となっている。

国内旅行・帰省の出発日・帰着日(予定)



国内旅行 (予定) の旅行期間



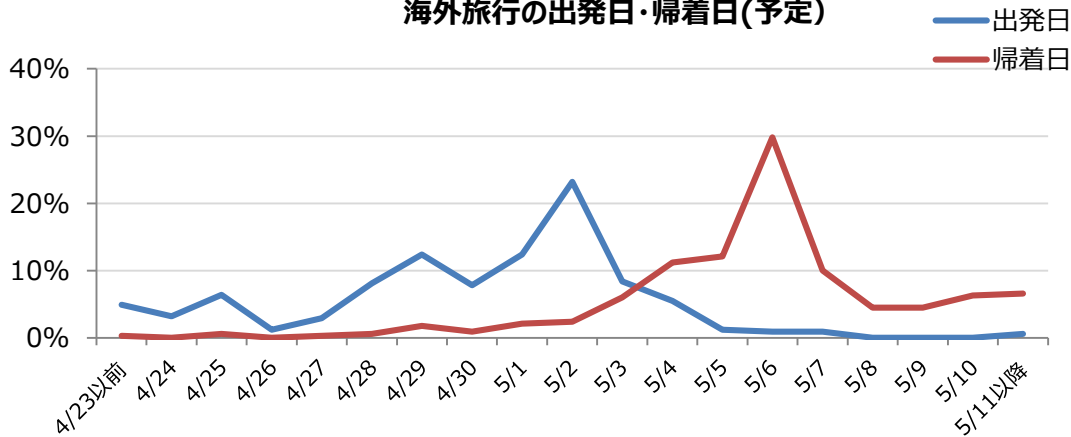
【TOPIC4】海外旅行の期間は平均 7.5 日。人気のエリアは「アジア」、出発日のピークは「5月2日(土)」。

海外旅行の期間は平均 7.5 日で、最も多いのは「5日間」(26.4%)。人気のエリアは「アジア」で、特に「タイ」「台湾」「ベトナム」の人気の高い。2位の「ヨーロッパ」は、人気の「フランス」がベスト5圏外となったのも響き対昨年マイナスだった。出発日のピークは「5月2日(土)」で、「4月29日(祝)」「5月1日(金)」が同率で続く。帰着日のピークは「5月6日(振休)」。

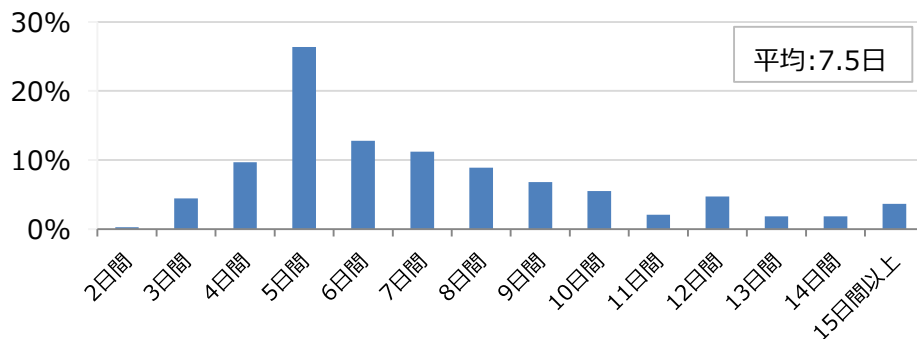
海外旅行の期間は平均7.5日で、最も多いのは「5日間」(26.4%)、「6日間」(12.8%)、「7日間」(11.2%)。人気のエリアは「アジア」で51.6%、次いで「ヨーロッパ」(26.3%)、「北米(ハワイ含む)」(13.9%)となった。国別では、「タイ」「アメリカ」「台湾」「ハワイ」「ベトナム」がベスト5となり、昨年3位だった「フランス」は順位を落としベスト5圏外へ。

出発日のピークは「5月2日(土)」(23.2%)、「4月29日(祝)」と「5月1日(金)」が同率の12.4%で続く。帰着日のピークは「5月6日(振休)」(29.8%)、「5月5日(祝)」(12.1%)、「5月4日(祝)」(11.2%)の順だった。

海外旅行の出発日・帰着日(予定)



海外旅行(予定)の旅行期間



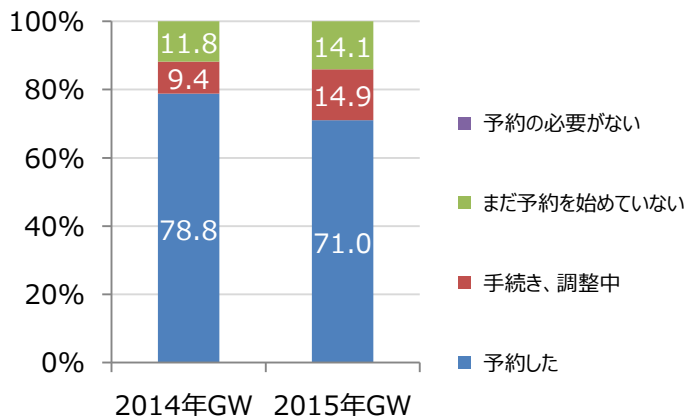
【TOPIC5】海外旅行予定者の 85.9%、国内旅行予定者の 62.2%が旅行手配に着手。

海外旅行予定者の 85.9%、国内旅行予定者の 62.2%が旅行手配に着手（3月中旬現在）。海外旅行については、「予約した」が 71.0%（対昨年 7.8ポイント減）と動きが鈍く、反対に国内旅行は、昨年に続き予約の早期化が進む。

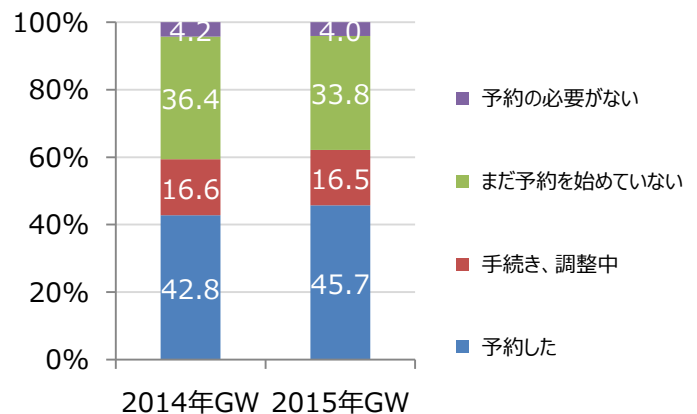
アンケートを実施した3月中旬には、海外旅行予定者の85.9%（対昨年2.3ポイント減）が旅行手配に着手していた。詳細をみると「予約した」が71.0%（対昨年7.8ポイント減）、「手続き中」が14.9%（対昨年5.5ポイント増）、「まだ予約を始めていない」が14.1%（対昨年2.3ポイント増）となっており、手配の動きは昨年よりも遅い。

国内旅行予定者は、62.2%（対昨年2.8ポイント増）が旅行手配に着手しており、中でも「予約した」は45.7%で対昨年で2.9ポイント増加。「まだ予約を始めていない」という人は、33.8%（対昨年2.6ポイント減）になっており、海外旅行と反対に、昨年に続き予約の早期化が進む。

2015GW海外旅行予約状況



2015GW国内旅行予約状況



■ 調査結果解説

解説・執筆：旅行ジャーナリスト 村田和子

1. 「国内旅行予約の早期化」、「GWも仕事派の増加」理由とは

TOPIC5で報告した通り、国内旅行予約については、昨年GWに続き2年連続で予約の早期化が進んだ。国内でLCCが就航し、航空各社は航空券の早割を拡大。発売を大幅に前倒し、価格を下げた商品で応戦する。旅行会社も繁忙期のツアーで早期予約特典の充実を図る等、サプライヤーの早期顧客囲い込みの動きが活発化しており、GWなど大型休暇の計画には特に影響が大きいと考える。また2014年の訪日外国人数は、前年比29.4%増の1,341万4千人となり過去最高となった。その影響もあり、国内旅行の手配（交通機関や宿泊施設等）を、従来のタイミングでしたのでは、希望通りの行程が組めないケースも出始めている。休暇予定が確定できる旅行者は、確実に安い「早期予約」を積極的に選択する傾向が今後益々強まりそうだ。

TOPIC2で、GWの過ごし方として「仕事」を挙げた人が増加した点に触れた。「景気回復により2014年の残業時間は年173時間で前年より7時間、20年前より36時間増え、統計をさかのぼれる1993年以来、最長（3/23日本経済新聞朝刊）」という報道にもある通り、残業の増加や人手不足が顕著化する中で、「休暇中だが『休まない』『休めない』という人」も増えてきていると思われる。

2. 海外旅行の手配や旅先は様子見の傾向も。治安面が影響か

2014年12月に実施した調査「2015年に訪れたい旅先（http://fortravel.jp/pressroom/20150115_press/）」では「ヨーロッパ」の人气が高かった。しかし本調査では「ヨーロッパ」は26.3%で、対昨年で2.8ポイント減となった。原因として、5連休ではヨーロッパなど遠方に出かけるには短く、有給等を利用した長期休暇も取りにくいこと。暦の関係で例年以上にGW後半を中心とした特定日に旅行需要が集中、円安傾向も続いており旅行代金が思った以上に高いことも影響していると思われる。「ヨーロッパ」の中でも旅先として人気のフランスは、「2014年GW調査」「2015年に訪れたい旅先」で、ともに国別3位だったが、本調査では大幅に順位を下げた。要因として、今年1月に発生したフランス紙襲撃テロ事件の影響が考えられる。海外旅行の予約時期も、昨年よりも手配着手のタイミングが遅くなっている。日本人を標的とする過激派組織ISによる声明など治安面での不安、また先に述べた暦や費用等の問題もあり、ギリギリまで海外旅行の実施や、渡航先について検討している人も多いのではないかと考える。本アンケート実施後はチュニジアの首都チュニスで、日本人を含む外国人観光客などが巻き込まれたテロ事件も発生し、GWの旅行へどう影響するのか気になる所だ。

3. 北陸新幹線、「興味はあるが混雑は避けてゆっくり」。「影響」「利用意向」は地域差が顕著

3月14日北陸新幹線の開通にあわせて、報道各社が北陸をクローズアップ。GWは北陸方面への旅行が多くなると思われたが、本調査では明確な影響は見られなかった。ただし本調査は、GWのJR指定席発売前の実施であること、「予定が決まっていない」という人も3割いることから、直前に動く可能性も充分考えられる。ここでは、同時に行った「北陸新幹線に関するアンケート」の結果を参考に紹介したい。

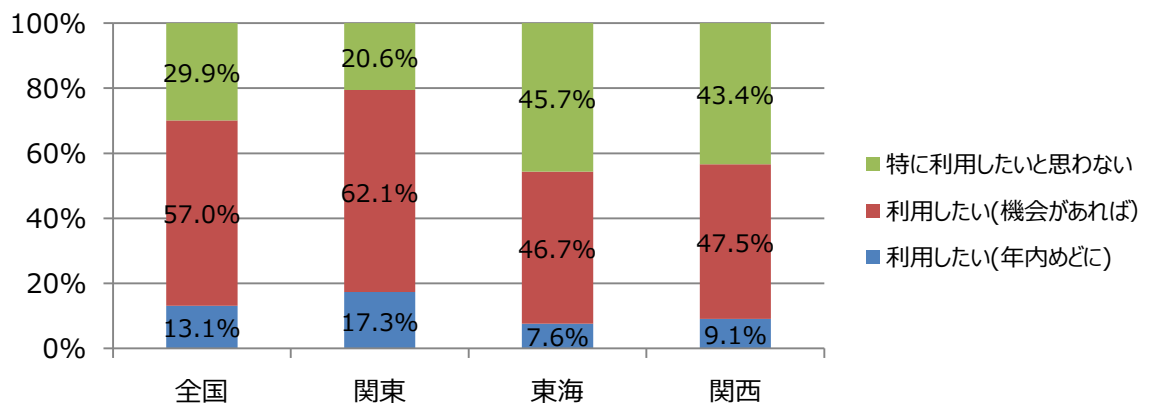
「北陸新幹線を旅行で利用したいか？」という問いには、7割以上の人が「利用したい」と回答。特に関東在住者は79.4%が「利用したい」と回答し、「北陸、特に金沢に行ってみよう」「東京から日帰りも可能で、気軽に行けるのが嬉しい」「北陸は訪れたことがないので楽しみ」と興味関心の高さを感ずるコメントが多い。ただし乗車する時期については、「機会があれば」が多数派で57.0%（関東で62.1%）、「年内をめどに」は全国で13.1%（関東で17.3%）となった。コメントをみると「開業して間もなくは人も多と思うので避ける」「ブームが落ち着いてから行く」等、混雑を心配する声が多い。また「この先ずっとあるので、特に急がない」「季節を選んでベストなタイミングで行きたい」という意見も。開業後初めてのGWという混雑必至の時期を避け、「落ち着いてからゆっくり」と考える人が多いようだ。

また「北陸新幹線開業の旅行計画への影響」については、全体の32.1%が「影響がある」と回答。北陸新幹線に関するアンケートでは、旅行計画への影響や利用に関する結果で地域差が大きく表れた。北陸新幹線沿線及び関東エリアでは関心や利用意向が高いが、東海エリア、関西エリアでは「北陸新幹線開通で、かえって東海（関西）から北陸への電車の利便性が悪くなった」等のマイナス意見も散見された。ただし関西エリアからは「長野県へは短時間へ行けるようになるので訪れてみたい」という、新たな旅行先として「長野県」に注目する意見もみられる。

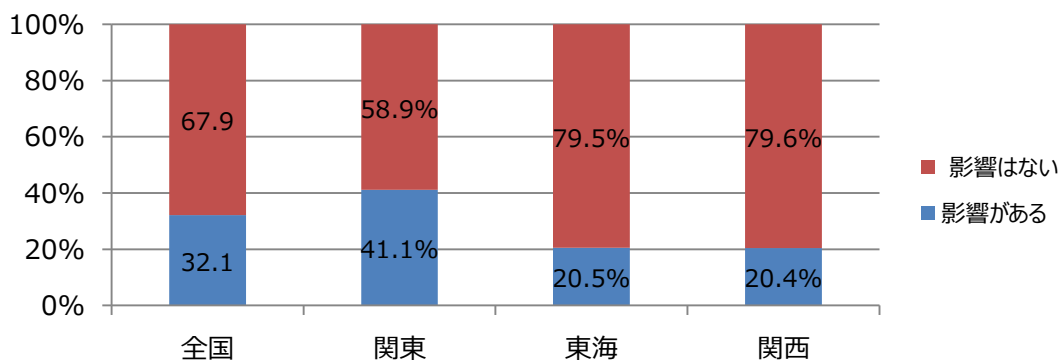
4月29日(祝)には、のと鉄道「のと里山里海号」、10月にはJR西日本「花嫁のれん」と、能登半島に2つの観光列車が誕生する。また4月より開始したNHKの朝の連続ドラマ小説「まれ」の舞台は、現代の能登半島の輪島ということもあり、能登を中心とした北陸が注目を集める機会が続く。潜在的な関心が高く、ダイナミックな自然を楽しめるスポットも沿線に多いことから、北陸への旅行ムードも徐々に高まると考える。

※解説を引用、転載等する場合は、解説者「旅行ジャーナリスト 村田和子」である旨を必ず明記してください。

北陸新幹線を旅行で利用したいですか？

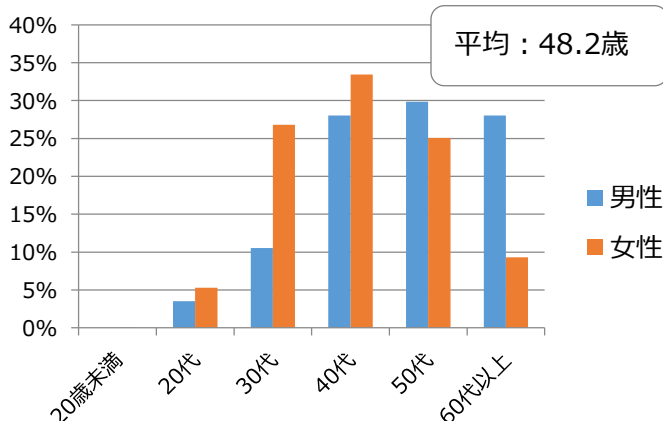


北陸新幹線開業は今後の旅行に影響しますか？

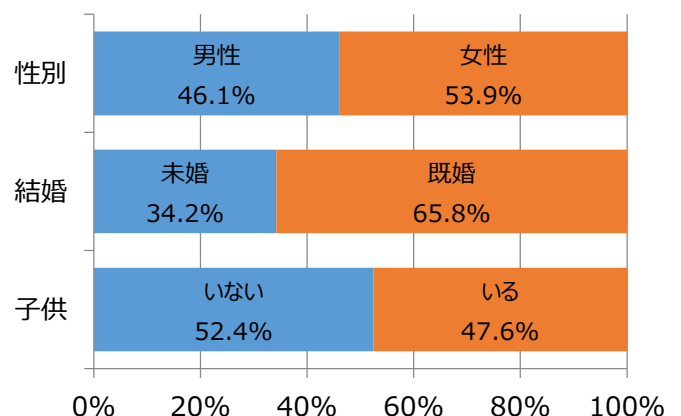


■ 調査実施概要 (回答者プロフィール等)

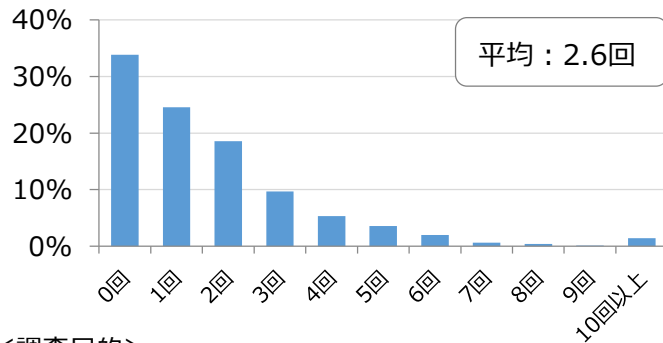
年齢



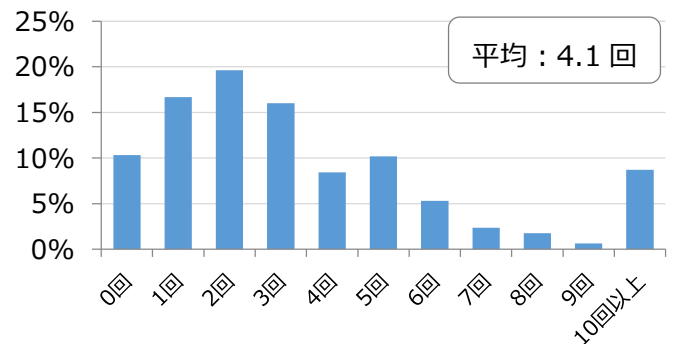
回答者プロフィール



最近1年間の海外旅行回数



最近1年間の国内旅行回数



<調査目的>

旅行好きのフォートラベルユーザーが2015年のGWの休暇をどう過ごす予定か、旅行消費・動向にどういった影響があるのか、実態を把握する。

<調査期間>

2015年 3月 13日 - 2015年 3月 19日 の 7 日間

<調査対象>

フォートラベル会員（有効回答数：2,765 件）

■フォートラベル株式会社について

事業内容： 旅行のクチコミと比較サイト「フォートラベル」の企画・運営

所在地： 東京都渋谷区恵比寿1-18-14 恵比寿ファーストスクエア8F

代表取締役社長： 安永 成志

2004年1月に旅行のクチコミと比較サイト「フォートラベル」を開業。トラベラー会員が旅行先での経験をクチコミとして投稿できるサービス、旅行写真をブログ形式で投稿できる旅行記作成サービス、ツアー・ホテル・航空券やレンタカー予約などの旅行商品を一括で比較・検索できるサービスなどを提供。2014年8月には、利用者数月間1,000万人、トラベラー会員数20万人を突破。

2015年4月より旅行ニュースメディア「NEWS for Travel」の提供を開始。

■データ利用について

1. 掲載に際しては「旅行のクチコミと比較サイト フォートラベル (<http://4travel.jp/>) 調べ」と必ず明記してください。

2. 掲載前に必要事項をご記載の上、弊社にご連絡ください。なお、ご連絡頂く際は以下について明記してください。

必要事項：会社名、担当者名、連絡先（メールアドレス、電話番号）、使用用途、発売日または掲載日

3. 本レポートは情報提供を目的としています。掲載したデータ及び当該データを加工したグラフ等の正確性・確実性については、その内容を完全に保証するものではありません。また、本調査結果の利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任は負いません。

4. 本レポートのご利用にあたっては、以下の事項を禁止いたします。

- ・本レポートを改竄して使用すること。
- ・本レポートを第三者に対し有償で提供すること。
- ・本レポートの複写・複製・転載・抄録要約、磁気媒体・光ディスクへの入力等をフォートラベル株式会社の許諾なく行うこと。

5. 解説を引用、転載等する場合は、解説者「旅行ジャーナリスト 村田和子」である旨を必ず明記してください。

<本件に関するお問い合わせ先>

フォートラベル株式会社 広報担当： 的井、山木

E-mail: press@4travel.jp